

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第19回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2023年

9

地域連携学生プロジェクト 宇治☆茶レンジャー × (株) ジーアンドエー

宇治茶と社長の優しさが詰まった化粧品を届けたい

宇治茶の魅力発信を行う地域連携学生プロジェクト「宇治☆茶レンジャー」が、緑茶化粧品の開発・販売を行う株式会社ジーアンドエー片岡宮子社長にお話を伺いました。

【守るものと変えるもの】

宇治茶から抽出したエキスをたっぷり使ったスキンケア用品の数々。国内産の有機栽培宇治茶茶葉が使用されています。片岡宮子社長は、約20年間、自社製品のみを使い続けていますが、とても美しいお肌をされていました。人気商品は抹茶石鹸とクリームです。保湿力が高いためアトピー性皮膚炎の方からも「症状が和らいだ」との声が寄せられています。成分のリニューアルに力を入れたこともありましたが、変化に敏感なお客さまからの声を受け「真新しさを求めるよりも、今お客様にとって本当に必要なものは？」ということを問い直し、現在は製法を変えず同じ成分で作っています。私たちが使わせていただいたカテキンクリーム「宇治の花」は、10年以上同じ製造方法で作っています。ただ、容器の形状やサイズは、定期的に見直しており、現在は、最後まで新鮮なまま使えるよう、空気に触れずに使用できるエアレスタイプのボトル容器が喜ばれています。



【お茶の効能との出会い】

ジーアンドエーの創業者は、現社長 片岡宮子さんのご主人で先代社長の片岡英璋さんです。もともと別の仕事をされていたが、健康食品分野への事業転換を考えるなかで、英璋さんが脳梗塞で倒れられました。入院を経て病状は回復しましたが、病後、肌荒れが激しくなり、くすみやシミが増えてしまいました。その時、たまたま宮子さんが聞いていたラジオで、茶葉を使い自宅で作れるパックが紹介され、それを実践してみたところ、肌のくすみが消え、白さが戻ってきました。英璋さんは、宇治茶の力に気づき、お茶の研究に没頭。肌が弱い自分を実験台にし、肌への優しさを追求した玉露の美顔パックやお茶石鹸、緑茶スキンケアを考案、試行錯誤を繰り返し、開発に成功しました。

【“ありがとう”を大切に】

英璋さんには先見の明があったと話す宮子社長ですが、2人が大切にしていたのは感謝の気持ちでした。経営者として大切なことは？との問いに、宮子社長は、「ありがとうや感謝の気持ちを言葉や態度で伝えること」と話されました。これは英璋さんも大事にされていたことで、社員さんがお茶を淹れてくれたりするといつでも「ありがとう」と言い、宮子社長にも常に出会う方々に「ありがとう」を伝えておられたそうです。先代からたくさんの「ありがとう」をもらった宮子社長は、その気持ちを引き継いでいます。ジーアンドエーの商品は、ポーランドに輸出しています。日本で暮らしていたポーランドの方が商品を気に入り、帰国後も使い続けたいと申し出て、個人輸入から取引が始まったと言います。取材のなかで、このようなお客様とのエピソードを沢山紹介してくださった宮子社長。お客さま1人1人を大切にされている様子がよくわかります。敏感肌の方やおじいちゃんおばあちゃん、海外の方…『肌トラブルで悩む人たちに届けたい』という思いで、2人の息子さんとともにこの会社を守ってきた宮子社長。この温かい人柄に惹かれ、先代社長をはじめ、沢山の人が引き寄せされたのだと思いました。



【今回の取材先】

(株) ジーアンドエー



1997年創業。世界で初となる高純度カテキン配合緑茶化粧品の研究・開発に成功し、コエンザイムQ10と高純度カテキン配合緑茶化粧品（化粧クリーム、石鹸など）の製造・販売を行っています。販売はネットが中心で、医療関係や海外にも出荷しています。

【今回の取材担当】

地域連携学生プロジェクト
宇治☆茶レンジャー

2010年設立。急須で淹れる宇治茶の美味しさや楽しさを発信するプロジェクト。中宇治エリアのお茶屋さんを巡る「宇治茶スタンプラリー」や子どもを対象にした「お茶の淹れ方ワークショップ」にも取り組む。



今回、取材・記事作成を担当した学生のみなさん。右から森島淳さん(臨床心理学部2年次生)増成 幸介さん(総合社会学部1年次生)、片岡社長、内山 優芽さん(臨床心理学部1年次生)